

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 マルコム ロス スワンソン	職名 教授	学位 大学教育部大学院修士課程
------------------	-------	-----------------

研究分野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研究課題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> • Advanced English Discussion I & II • English Extension I • English Extension II • リーディング I • リーディング III • メディア英語 I • メディア英語 II • 英語コミュニケーション I & II • 英語プレゼンテーション II • 専門演習 • 卒業研究 • 地域プロジェクト

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【英語プレゼンテーション II】</p> <p>2019 年度は、この授業は 6208 教室のマックルームを使用した結果成功した。学生はパソコンと iPad の両方を使用した技術開発を行うことに集中した。学生が最後の課題に作成したプレゼンテーションは今までのなかで最高の出来であった。2020 年度は作業に基づいた学習をコースに組み込む予定である。</p>
<p>授業科目名【メディア英語 I】</p> <p>CHIeru による学習は学生にとって実用的である。またこれは、英語で授業をする教師にとってもまた、学生のニーズに適した教材づくりとして利用できる。学生もまた他のメディアを試す機会となり、それぞれのプログラムに適合した授業をつくることができる。</p>
<p>授業科目名【English Extension I & II】</p> <p>1, 2 年生を対象にとっても充実したプログラムを提示することができた。通常の活動に加えて、「カナダ ウィーク」や「イングリッシュ ゲーム」、「卒論ポスターセッション」も実施した。全員高成績によりコースを修了している。2020 年度は、学年ごとのグループ活動を提示、挑戦する機会を作る予定である。</p>

<p>授業科目名【英語コミュニケーションⅠ&Ⅱ】</p> <p>学生の自然な会話技術の向上に焦点を当てた新テキストを使用。これは授業でより多くの会話を促すのに大成功であった。Bクラスの学生にはスキルアップのための補足が必要だった。2020年度は学生の会話技術向上のため、クラスサイズを縮小する予定。</p>
<p>授業科目名【地域プロジェクト】</p> <p>この授業は1年生を対象としており、プログラムを具体化するのにしばらく時間がかかった。すべての学生が環境及びSDGsの認識が深まったことから、全体的に成功した。2020年度は学生手作りの教材を取り入れる予定。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	会員 第44全国語学教育学会 大会研究発表記録集編集長 Website 編集委員	1996年～現在に至る 2019年11月 2010年5月～現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語教育コンソーシアム)	会員	2005年5月～現在に至る
Moodlemoot		
JASAL (Japan Association for Self-Access Learning)	会員 会員	2020年1月～現在に至る 2015年7月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 大学新生のためのピアサポート・プログラムの実施：効果の評価	共著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	2019年の春、英語学科に入学した新生のための新たなピアサポート・プログラムが開始された。このピアサポート・プログラム(PST)は、高校から大学へと移行する新生を2年生が手助けをするために計画されたものであった。この報告書は、このプログラムの改善状況と両学年の学生たちへの効果を明らかにすることを目的とする。さらにこの報告書は、他の機関で実施されているプログラムに加えて、このたびの関係学生に対して行なった複数の方法を組み合わせた調査の結果とコメントに基づきさらなる改善策を示唆するものである。「アンデリユー・ジッツマン」

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				
Taking Learning Online	共著	2019年4月	JALT 北九州	発表では、融合した学習プログラムの一部として、オンライン学習を使用した授業の仕方を示した。 共同研究者：Paul Collett
Challenge-Based Learning (CBL) with Technology	共著	2019年7月	Apple Distinguished Educators Event (Australia)	授業のなかで、iPads のようなテクノロジーを使用した課題中心学習を使用したワークショップを行った。
Interactive Software for Language Classrooms	単著	2019年9月	JALT 北九州	学生の反応を調べるための学習用アプリ Plickers や Mentimeter という投票集計用アプリを紹介するワークショップを行った。
Design Skills for Teachers	単著	2019年11月	Apple Distinguished Educators Workshop Tokyo	このワークショップは、iOS や Mac で作成したものをより見やすく、分かりやすくするために、よいデザインの原理をどのように使えるかを発表している。
Radio Plays in English	単著	2019年11月	特定非営利活動法人 ACROSS 大阪	語学学習者が単独でボカリスケルに集中することができる Radio Plays の利用について、教員向けにプレゼンテーション及びワークショップを行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
梅光学院大学 ESS プレゼンテーション・コンテスト (1, 2位)	ESS Contest 審査員	2019年6月
西南学院大学 ドージアスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2019年7月
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート&スピーチ・コンテスト 審査員	2020年3月 (Cancelled)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教育経費予算配分委員

英語学科の予算委員を担当し、2014年度委員長となる。

情報システム管理運用委員

531 教師のアクティブ・ラーニング・センターについて取り組んだ。

オープンキャンパス、英語学科のオープンキャンパス、保護者懇談会、ZIONCUP（スピーチコンテスト）の委員となって企画、運営を行う。

英語学科ウェブサイトの管理

英語学科のウェブサイト情報をアップデートするための委員会の責任者となる。

第1回 KANAME 杯英語スピーチ・コンテストの運営委員メンバー。ウェブサイト運営、ポスターや出版物のデザイン、及び全メディアの対応を担当した。

英語学科フレッシュ・キャンプ委員

プログラムの企画検討を行う。（行き先：山口県西長門リゾートホテル）

教員免許状更新講習（8月）"Active Learning for Student Motivation" をテーマに2回ワークショップを担当。

大学祭での3年生ゼミの出店